



# トラックキャラバン4町を駆ける

# 憲法に自衛隊明記で、徴兵可能？



ロシアは今こそ9条！世界にアピール！



## 憲法学習会：「戦争をふせぐには？」 …自衛隊を書きこめば、徴兵制も?!

講師：神保大地弁護士

5月7日、長沼町民会館で「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表の神保大地さんを迎えて学習会が開催されました。

神保弁護士は大切なこととして…

1、「今の世界が完璧だなんて思わない」・「ロシアのやったことは国際法違反」・「核兵器禁止条約と憲法9条の意義を確認する」

2、ウクライナ・ロシア情勢から分かる憲法9条の意義をテーマに、「ロシアによる軍事侵攻の違法性」と「ロシアの言い分けは理由になっていない」～その理由として…

●NATOの東方拡大は「約束違反だ」⇒確かに「約束違反」だが、攻撃を正当化できない

●ウクライナによる弾圧からの解放「東部2州のロシア人に対する弾圧」⇒内戦状態だったことは確かだが、であれば国際機関が査察すべきだった

●ネオナチの駆逐⇒いたことは確かだが、攻撃の理由にはならない



3、国際法違反の項目を指摘⇒紛争の平和的解決義務

武力行使禁止原則・不干涉原則・国際人道法

★武力を持っていることが戦争の誘因になった⇒憲法9条の方針そのものが示している。この9条に自衛隊などを書き込ませないことが、軍事増強や徴兵制などをもくろんでいる勢力を押さえることができる。

内容の一部をご紹介しました。「戦争止めろ!」「侵略やめよ!」の声を大きくすることが非常に重要と再確認した学習会でした。

5月3日の憲法記念日、1市4町の会のトラックキャラバンが開催され、10時から

南幌市長沼町由仁栗イナに平和を」と歌と演奏でスタート。次に、野党各党から美栗山千葉清が

「憲法9条をまもれ」「憲法9条をまもれ」など「憲法9条を生かし平和の外交を」と訴えました。

最初に、Gブラザーズによる「ウクライナはアピールをやめよ!」



野隆雄道連幹事長がスピーチ。その後、市民団体を代表して「明日の平和をつくりだす夕張の会」の渡辺輝夫共同代表が、最後に、憲法共働センターのト部義雄代表の挨拶とともに、参加した26名全員で平和と安心の暮らしを訴え、終了しました。

# 第93回メーデー 夕張集会開催！

5月1日(日)第93回メーデー夕張集会が、拠点複合施設「リスタ」にて開催されました。

「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう！」をメインスローガンに掲げ、筒井勇治実行委員長と来賓の日本共産党くまがい桂子夕張市議のあいさつの後、市長・議長のメッセージが紹介されました。長びくコロナ渦生活が続く中、不安定雇用労働者が苦しい



生活が続いています。また、燃料の高騰や物価の急上昇で国民の生活が苦しくなっています。実行委員会事務局長から報告されました。また、ロシア軍のウクライナ侵略をめぐり、参加者からも発言があり、「特別決議」、(国連憲章違反のロシア軍は、直ちにウクライナから撤退せよ!)が提起され、採択されました。また、ロシア日本大使館長あての「抗議ハガキ」をみんなで書き、戦争を止めようとの提起もされました。

## くずさんの 夕張歴史散歩(178)

石炭のはなし (新夕張駅その3)  
市役所の新設では、1964年(昭和39)昭和通りをへだてて筋向いに、まず庁舎別館(旧図書館)を建て仮庁舎とします。  
また市民会館の新築は、市役所の建設とほぼ同時にすすみます。1962年(昭和37)6月市民会館が現在地に着工し、翌年9月21日4階建てで竣工します。

### 新市民会館完成と変遷

この時の市民会館の構造は、1階に新夕張駅が併設され、その時に本町駅と改称されます。1階全体が待合室と駅事務所でした。玄関を入り正面に数段の階段を上がって改札があり、直接プラットフォームに入る駅でした。  
2階が市民食堂で3階が会議室と地区労協事務所、4階には大会場と和室が数室設けられ、結婚式場として使われました。

この本町駅も、夕鉄客車廃止に伴い(前号で紹介)廃止となりますが、駅事務所を「郷土資料室」に模様替えし、翌年には展示室を1階全体に拡大し、当時散在していた炭鉱関連の資料をまとめて「炭鉱資料室」と改めます。(現在の石炭博物館の前身。昭和55年、旧夕張会館を改修)。

### 市民会館大ホール

いよいよ市役所新庁舎は、1976年(昭和51)10月に着工、2年後の1978年(昭和53)6月に竣工します。

これに合わせて市民会館も1979年(昭和54)秋に大改修します。1階の旧本町駅待合室を市民食堂と調理場として、新庁舎の2階と渡り廊下で結び、食堂と直結させました。そして右側に大ホールを完成させます。



島山 和也「かけある記」  
元衆議院議員  
島山 和也

### 子どもたちの笑顔を頭に浮かべ

「チエルノブイリ原発事故の時に、避難して子どもたちを受け入れたことがあります。ウクライナのニュースを見るたびに、もう大人になったあの子どもたちが、たかひの最前線にいるかとも思うと心配でなりません」。つどいに参加された女性の言葉です。

ロシアの攻撃を早く止められないのかと、もどかしく感じます。しかし、軍事で対抗すれば報復の悪循環。家庭や職場、地域、SNSなどで思いを形にしていくことは決して無駄ではないはず。世論の高まりはウクライナやロシア国内にも届いていると確信しています。

別のつどいで「防衛費倍増とか、今さら安倍元首相が出てきて何を言ってるのか」と語った方は「でも、そういう声が多数になるのではと心配になる」とも。マスコミが、このような発言を垂れ流している現状が危ないとの発言もありました。私もそう思います。

自民や維新などによる軍事力強化をとの主張は、外交の力を投げ捨てることにつながります。いま議論すべきは自衛隊員を戦地に送ることではなく、隊員に血を流させないための外交をどうするかではないのか。大事な一人ひとりの命なのです。

冒頭に紹介したチエルノブイリの子どもたちは、キャンディが大好きだったとか。おいしいものを食べられて、大好きな家族と安心してくらす世界と日本へ。子どもたちの笑顔を頭に浮かべながら、全道をまわります。